



相模原市総合写真祭

TOPICS

フォトシティさがみはら



老ゆせいのりゆうじくり
旧善柳寺庫裡 (相模原市古民家園)

10/20日
10:00~12:30

▲文化財保護課の方から建物の説明を受けた後、引き続き写真家・小林恵さん(いちばん右側)から撮影のアドバイスを受けて撮影会は始まりしました。

この秋から初冬にかけて、フォトシティさがみはら実行委員会は文化財保護課と共催しユニークベニュー事業を実施しました。※ユニークベニューとは特別な(ユニーク)会場(ベニュー)のこと一般市民対象の写真教室をこのまの文化財建造物を会場にして開催したのです。県や国の指定登録文化財となる建造物のガイドを文化財保護課の職員の方にさせていただいて興味の深まったところで、古民家園では小林恵さん、旧中村家住宅では萩原義弘さんというプロの写真家のアドバイス

を受けて、各自、建物内や周辺を自由に散策しながら撮影に挑戦しました。文化財知識を豊かにできるだけでなく、写真撮影術のヒントが得られる二度美味しい企画。参加された方にはカメラを趣味にされて、仲間やご夫妻で誘い合われた方もいらして、自由に撮影するより手応えが得られたようでした。当日撮影された写真作品は2025年1月に市立博物館で展示されることになっています。

あなたと写真と相模原の文化財と

文化財保護課とユニークコラボレーションで写真撮影会

文化財と仲良くなるコツは物語りをイメージすること

小林さんは文化財建造物を撮影しようとするとき「物語り」をイメージすると構図や被写体が定まってくると助言されています。例えば、自分が建築家になったような気持ちで建物を展開してみる、どんな立場で建物を訪ねてたか設定してみるなど、確かに光景が変わってくる気がします。

ことに国の登録有形文化財となっている旧中村家住宅は、幕末期に建設された和洋折衷住宅として稀少価値があると同時に生活感が色濃く残るものだけに、時代の生活場面へと想像をかきたてられました。当日は、裏山の稲荷神社に入る貴重な機会も得られ、勝坂遺跡の近さをあわせて地域の文化財としての価値・趣きが立ち上ってくる思いがしました。もっ

とこのまの文化財と撮影会とのマッチングの可能性を求めたいものです。「物語りの想像力」を働かせる仕掛けとして企画したのは「おばらまるしえ」と同時開催した小原宿本陣。題して「チエキなりきり撮影会」。骨董市で仕入れてきた着物や小物を用意。江戸時代にタイムスリップした気持ちで撮影する機会を用意。カメラを通じて文化財と仲良くなれたでしょうか？



▲障子の前に撮影講師の萩原義弘さん
心すまの向うに文化財説明会委員の正さん



撮影を指導された写真家萩原義弘さんからひとこと
他人に左右されず自分が興味を持ったところ(細部)を探して撮影すると、そこからは当時の人たちの美意識が見えてきます。写真を通して独自の美を追求してみてください。



小原宿本陣



▲着物や小物、駕籠を用意撮影してもらう体験会でした。

DOCUMENT! 記録!
EXPRESS! 表現!
MEMORY! 記憶!

相模原市総合写真祭
フォトシティさがみはら実行委員会
事務局：相模原市文化振興課
TEL 042-769-8202